



ブラジリアの風

Vento de Brasília

～ブラジル移民110周年の節目に～

1908年に移民船「笠戸丸」が神戸港を出港して始まったブラジル移民は、今年で110周年を迎えました。日本語学校では6月23日に恒例の「お話大会」を行い、会の冒頭で移民の方々への敬意と感謝を表しました。



約40名の生徒たちは、それぞれに覚えた日本語のスピーチを原稿なしで語り切ることができました。なかでも私の心を打ったのは、曾お祖母様の移民の歴史を話してくれた松永姉妹のスピーチでした。異例のペアでのスピーチでしたが、日系4世として伝え聞いている曾お祖母様への思いは二人とも同じでした。当時12歳だった曾お祖母様は、いわゆる「構成家族」の一員として親戚に預けられ、12歳で家族から引き離されてブラジルに渡りました。3年働いたら必ず日本に返すという約束で親戚に預けられたものの、その約束は果たされませんでした。それでも曾お祖母様は日本に帰る夢をあきらめませんでした。そして念願の夢が50年後に実現しました。どんな思いで家族の元に帰ったのかを想像するだけでも胸が熱くなります。ところが、日本の家族は彼女を温かく迎えてはくれませんでした。50年

ぶりの再会にもかかわらず、家族は彼女が財産目当てで帰ってきたといぶかったのです。曾お祖母様は、失意の内にブラジルに戻られたとのことでした。

ちょうど今年の初め、ブラジル移民の歴史を扱ったNHKドラマ『ハルとナツ』を教会の皆さんと見ましたが、生き別れとなった家族は決して映画の世界のことで



はないと改めて知りました。そしてその痛みの歴史を伝え聞いているひ孫世代の生徒がこんな身近にいることにも衝撃を受けました。

8月1-15日は、日本からミッショントリップのメンバー5名を迎えます。紙面でこのレターが届く頃には、恵みの内に終了していると思いますが、引き続きブラジル宣教の進展のためにお祈りとお支援をお願いいたします。また西日本豪雨被災地の方々のいやしとご回復をもお祈りいたします。2018.7.18

浜田献、陽子

献金報告と感謝

献金者一覧(2018年5-6月)

総和刈込教会、新船橋刈込教会、愛宕山教会、播磨刈込教会、松戸福音教会、波崎刈込教会、追浜聖書教会、蛸池聖書教会、石神井福音教会、安城中央刈込教会、学園前聖書教会、小平聖書刈込教会、光の森聖書教会、辻村潤治、生駒めぐみ教会、原山いずみ、浜田良夫 (敬称略)

236,150円 (5-6月合計)
562,303円 (累計)
今年度目標額：320万円